

## 多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会 第1回

日 時： 平成28年6月25日（土）午後2時から5時21分まで

場 所： 図書館本館 閲覧室

出席者： （基本構想策定委員会）委員長、副委員長、委員8名

欠席者： なし

（事務局等）市長、教育長、教育部長

図書館長、図書館主査、関戸・東寺方図書館長、永山・聖ヶ丘図書館長、  
企画運営係長、地域資料係長、サービス係長、コンサルタント2名

---

### 1 開会

事務局： 第1回多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会を開催する。

委員長が選任されるまでの間、事務局が司会進行する。

#### (1) 教育長あいさつ

教育長： 図書館本館は、以前は市役所に隣接したところにあったが、施設の耐震や設備改修上の問題から、平成20年3月に旧西落合中学校跡地施設に最小限の改修を行って移転した。暫定10年の使用期間とされていて、まもなく期限をむかえる。また、昭和40年代に構想された現在の図書館ネットワークの維持は、これからの超高齢化社会を考えると困難がある。

5月25日教育委員会で決定した「多摩市読書活動振興計画」では本館自体の課題解決と併せて市全体のサービスを見据えた本館の施設整備を検討する必要があるとしている。また、策定段階で市民の皆さまから現在の図書館への思いをパブリックコメント等とおして数多くいただいている。

中央図書館については過去5回計画が持ち上がったが、財政等の理由から宙に浮いたままであった。平成25年11月に「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」が公表され、本館再整備と図書館施設総量の問題がクローズアップされている。今回の図書館本館再構築基本構想策定委員会では、市民の皆さまからいただいた意見とこれまでの本館構想を踏まえて、新しい図書館ネットワークのあり方と本館整備を議論していただきたい。

#### (2) 委員紹介

#### (3) 事務局紹介

#### (4) コンサルティング業務受託者紹介

#### (5) 策定委員会設置要綱について

#### (6) 委員長及び副委員長選任

#### (7) 委員長及び副委員長あいさつ

- 事務局 : 委員長・副委員長の選出を、委員の皆さまから推薦があればお願いしたい。
- 委員 : 策定委員会委員長に、柳田委員を推薦したい。  
(複数委員から推薦)
- 事務局 : 事務局からも委員長は柳田委員にお願いしたい。  
副委員長は、事務局からの提案で図書館協議会会長の松本委員にお願いしたい。  
(一同了承)  
以降、委員長に議事進行をお願いする。

## 2 議事

### (1) 策定委員会の進め方の提案

- 委員長 : 資料はたくさん用意されているが、コンセプトに基づき自由に意見交換する委員会であろうと考えている。

議事(1)策定委員会の進め方の提案について、事務局より説明をお願いする。

- 事務局 : 資料3「策定委員会の進め方の提案」をご覧ください。

本館建設までのながれを説明する。平成28年度は本館再構築基本構想を策定する。今後の市立図書館全体のサービスネットワークと分館のあり方を考えながら新たな本館に求められる機能をまとめていく。それを受けて平成29年度で本館再構築基本計画、新たな本館のサービス・資料・職員・運営・具体的な規模・機能等考えていく。平成30年から32年まで開館時期は具体的に決まっていないが、設計・建設につなげていこうと考えている。

資料下段は基本構想策定委員会の進め方の提案。全5回で構成。本日の第1回は現状と課題の共有、既に出ている多くの市民からの意見を確認したい。第2回は市立図書館全体ネットワークの検討と提案しているが、ここで実際に市民の皆さんから意見をうかがったり、それに対して図書館職員がどう考えているかを聞く機会を持てたらと考えている。また、市民団体・学校図書館司書などからヒアリングを行い委員会に報告を行う(市民意見の反映)。第4回で基本構想原案の確認、第5回でパブリックコメント等を踏まえた上で基本構想案を決定できたらと考えている。

資料3裏面は、平成2年からこれまでの様々な検討・調査・報告を記載した。まだ提供していない資料もあるが、順次提出していく。もうひとつは、基本構想を考える視点を事務局なりに考えたキーワード(第五次多摩市総合計画・図書館法・読書活動振興計画などから抽出)を記載している。

- 委員長 : 質問・意見はあるか。

- 副委員長 : 策定委員会を5回行うという説明があった。第4回で原案の確認となっていて、自由な議論の機会が少ないと感じる。基本構想では本館の計画とともに市全体のサービスネットワークを検討する重いテーマがある。もう1回増やしてはどうか。図書館協議会でも5回では少ないという意見が出ている。

委員 : 十分な議論をしたい。市民の皆さまからもいろんな意見をいただきたい。1回でも増やすことに賛成する。

委員長 : 委員会開催日程について意見が出た。実質として協議は4回。多摩市では過去に長く積み重ねの歴史があるが、具体化してからの議論は大切だ。荒川区では10年ごしの計画の後、8回くらい委員会を行った。区議会議員が自主的に全国の視察を行い、それを背景に委員会の議論をしたので具体的なイメージの共有がしやすかった。計画の立ち上げ段階で集中して委員会を行うのは良いことだと思う。

7月下旬から8月で日程調整してはどうか。

事務局 : 事務局では対応可能。

委員 : 基本構想案を12月に策定するという提案になっている。建設年次が決まっているので順に基本計画が来年度となっているのだろうが、基本構想は要(かなめ)だと思う。全体に策定期間を伸ばすことはできないのか。更に回数を増やすことはできないのか。松戸市の計画など他市でのご経験ではどうか、うかがいたい。

委員 : 市全体のネットワークを含めて検討するとなるとタイトな回数かと思う。根幹的な議論で時間がかかるようにも思う。昨今は欧米も含めて、公共図書館が大きく変化している時期なので、しっかり方向性を見極める大切な期間ではないか。

委員長 : 基本構想策定案のまとめを12月とした理由を事務局にうかがいたい。

事務局 : 来年1月から2月の教育委員会で基本構想として確定させたいので、このような日程を提案した。

委員会の開催回数については、2回ほど増やすことが予算的に可能。

委員長 : 8月上旬、11月あるいは1月上旬など議論の進行をみて開催を増やすことを考えてみてはどうか。

委員 : 教育委員会にかかる前に、この委員会でしっかりまとめたい。回数を増やす方向で決めてはどうか。

委員 : 追加日程は、土日や夜などにすれば自由時間が多く、決めやすい。

委員 : 委員会の会場は今後も本館で行うのか。

事務局 : 本日は、この委員会の閉会后に本館の現状を見ていただくため本館で開催したが、第2回からは市役所本庁を考えている。

委員 : 市全体のネットワークを考えるとときに、地域館のあるところでも開催すると良い。

委員長 : 地域館を委員で視察することを別途考えても良いのでは。

委員 : 全体ネットワークの再構築を考える上で地域館の実態を見て知るべきだ。

委員会以外に、市民団体や学校図書館司書などのヒアリングがあるということだが、日程が合えば同席してご意見をうかがいたいと思う。

委員長 : ヒアリングはどういう形で行うのか。

事務局 : 市民の皆さんが一堂に会して意見をうかがうと言い出せない意見もあるのではないかと

と考えた。学校図書館司書などのグループごとに事務局とコンサルで意見をうかがう。

7月7日に図書館職員の全体会で職員の意見の聴き取りを行う予定。職員や市民の団体には、委員会でも直接意見を述べる機会をつくりたい。ヒアリングの日程はまだ決まっていないが7、8月で行っていこうと考えている。ヒアリングの結果は委員会で報告する。

委員長 : ヒアリングの対象など予定が決まったら委員に周知していただきたい。第2回委員会はまだ日程が決まっていないが、ヒアリングが終わったものは報告をお願いします。

委員 : 事務局の想定する団体以外で、手を挙げた市民団体からもヒアリングをしてもらえるのか。

委員長 : ヒアリングの周知はどのように行うか。

事務局 : 広報などの紙媒体では締め切りがあるので、図書館のホームページへの掲載と各図書館への掲示を行い、募集をしたい。

委員長 : 7月上旬までに周知していただきたい。市で選定した団体だけに意見をうかがうのでは本当の意味での意見聴取にならない。

他に進行案について意見はないか。私からの質問、平成28年から32年までの全体計画表の見方をうかがいたい。

事務局 : 年度ごとに進行を示したもので、明確に決まっているのは平成28、29年度。その後は予算計画がまだ定まっていないので、だいたいの予定を示している。

委員長 : 私から2つキーワードとして浮かんだことをお話ししたい。資料3にある「図書館法」について。図書館法は施行がされてから年月を経ているので、時代に合わないこともある。福島県矢祭町で図書館を設立するときに資料費がないので全国から寄贈を募り「矢祭もったいない図書館」として開館したが、図書館法に合わないから図書館と言えないと学識経験者から批判された。法律にとらわれず柔軟に考えたい。

もうひとつは、「知の地域づくり」。片山元総務大臣が鳥取県知事のとときに考えられた造語である。土木行政に頼らない、地域の人々が文化的により良い人生を送れるような地域づくりを考えた言葉。このようなキーワードがヒントになるのでは。

次の議事に進む。事務局より説明をお願いします。

事務局 : 市長が到着したので、挨拶をさせていただきます。

市長 : 図書館本館再構築基本構想がいよいよ策定される。市政施行45年、臼井市長時代から中央図書館構想が掲げられていたが、なかなか行き着くことができなかった。

平成25年の公共施設見直し方針と行動プログラムにおいて地域図書館がどうなるのかご心配があると思う。7月に政策情報誌が発行され全戸配付となるが、地域図書館・児童館など館ごとに詳しい説明がされる。一旦立ち止まってきちんと検討していこうとなっている。

私自身も文字・活字文化に愛着がある。こどもたちに残していくものを大切にしながら進めたい。ICT、インターネットなど時代の進行が早い。映像化はアニメや漫画などを元にしたものが多い時代であり、漫画図書館などが利用者を集めるなどの傾向もある。それらに絵本を含めた情操教育等も考えなくてはならない。

図書館は広場、知のインフラ。グローバルな視点も大切だが、地域文化・歴史文化を大切にしていきたい。成人式を実行委員会を組織して行うなど資産と言える活動も出てきている。地域の図書館や図書館本館についても市民の皆さんが主体となり、どうしたいかプランを立てて行くように議論し討議していく、基本構想策定委員会の議論もその素地になればと思う。

## (2) 多摩市の図書館行政に係るこれまでの議論と課題

委員長： 議事(2)多摩市の図書館行政に係るこれまでの議論と課題について、事務局から説明をお願いします。

事務局： 資料4をご覧いただきたい。コンサルタントが作成した資料であるが、事務局から説明をさせていただきます。

市民と地方自治の論理(暮らしの豊かさを目指すベクトル)と都市経営の論理(効率性や持続性を目指すベクトル)のせめぎ合いのなかで、基本構想をどうつくっていくかという図の構成になっている。第三次、第四次総合計画では多摩センター地区に中央図書館をつくと掲げられていた。既存の地域館と中央館が役割分担をしていくことも書かれていた。その後、地域館がどんどん作られていったが中央館が実現しないなかで役割分担が難しくなってきたように感じている。

平成2年に図書館が委託し「多摩市立中央図書館基礎調査報告書」が作成された。これを受けて図書館内部でも中央館の検討をしていった。多摩市に中央図書館をつくる会でも様々な講師を迎えて研究や勉強を重ね現在に至っている。図書館協議会の答申では100万冊規模の中央館構想をしていたが、現状ではなかなか難しいところに来ている。

財政的な厳しさで言えば「公共施設の見直し方針と行動プログラム」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では人口14万7千人台から11万人になるという推計もされている。そういったことから持続性のある図書館のネットワークを考えていく必要がある。

既存の地域館と拠点館があり、新しい中心館はどのような役割を持つか、地域館の役割はといったことを考えつつ、多摩市らしい図書館ネットワークと本館を考えていくということである。

委員長： 資料4は全体のイメージをマッピングしたものということで、これを踏まえて、次の議事(3)多摩市立図書館の今(現状と課題)に進める。

## (3) 多摩市立図書館の今(現状と課題)

事務局： 資料5-1、5-2をご覧いただきたい。多摩市立図書館の現状と課題について。

施設の現状：どの図書館も図書室の床面積は大きくない。関戸図書館は設計時で8万冊収容と言われていた。地域館は4万冊規模と言われていた。本館の現状について、書庫は建物の半分を使っている、耐震上分散して書架を配置していて、空調設備がない。資料にも職員にも厳しい環境となっている。行政資料室は土日閉館しているが、その機能対応が本館でできていない。

資料：本館にわりあてられている新聞のタイトル数が少ない。土日は行政資料室の分を本館で提供している。今後の本館は充実する必要がある。

選書：本館を開架20万冊規模とするなら、深みを持たせるような選書をしていく必要がある。現状はリクエストに応えることに日々追われていて蔵書構築を考えた選書に至っていないという課題がある。また、資料の所在を固定していない。本館で借りて永山で返すと永山の蔵書になるということになる。シリーズ物を確認すると複本があるものでも全巻揃っているところはない、という状況になっている。本館を再構築して開架スペースが広くなれば、資料を固定することを検討していく時期かと考えている。

職員：嘱託職員は全員司書で経験がある方を採用している。唐木田図書館は窓口の業務委託をしている。館長は市の職員だが常駐していない。

利用者：登録は5年有効で約6万人が登録している。年1回以上利用している方は人口の21%。小学生の利用が活発。小学2年生に実施している図書館の利用案内の効果かと思う。中学生の利用では職場体験や学校図書館の活動がいきているようだ。十代後半から二十代の利用が落ちているのが課題か。

サービス：団体貸出では、地域の幼稚園や保育園にも貸出を行っている。

子どもへのサービス：絵本かたりかけ事業では3ヶ月検診で絵本・ブックリストなどを差し上げている。

障害者サービス：インターネットストリーミング配信で録音資料を聞けるサービスを始めている。高齢者施設に出掛けて利用のご希望を聞いて届けるサービスも利用が伸びている。(ボランティアに支えられている)

サービスの課題：開館時間延長の要望＝コストがかかり、職員の専門性の育成にも影響していく。貸出冊数無制限＝貸出業務が忙しい。今後も続けていけるのか。予約件数の多さ＝理由が分析できていないが、中央館のある浦安市も同様の数字となっている。

委員長：項目別に、多摩市立図書館の現状の課題を説明していただいた。全体として、多摩市の図書館のあり方の課題や中央館はどのような方向をめざしたいのか、総括的にお話し下さい。

事務局：多摩市の図書館は、貸出を動かすために地域図書館からつくりはじめ、中央館がつくられていないという現状で、どこで借りた資料をどこで返しても良いようになっている。利用者の要求に応えること、提供することを優先にリクエストのある資料・新しい資料を中心に揃えてきた。そういったなかで、中央館にふさわしい蔵書構成、職員の経験づ

くりができていくか、施設の機能はどうすれば良いかということ立ち止まって考えるところに来ていると感じる

副委員長： 今後、サービスとして「課題解決」等も重要になっていくが、地域の貸出のニーズに応えることも重視したい。できるだけ効率化していくよう考えたい。ICタグの導入で自動貸出や返却、書庫の出納も早くなるということも聞く。

深みのある蔵書という話があったが、現況での収書方針や廃棄基準はあるのか。

事務局： 収書方針は、地域資料等にはあるが、一般書では「幅広く収集する」といことで限定的な決まりはない。

副委員長： 収書方針は、分野ごとやNDC分類にそってある程度レベルを決めて収書するというのがひとつの方策かと思う。

委員： 予約受付件数の多さについて。多摩市の図書館は電算化が早かった。検索・予約が便利で予約件数に制限がないことも理由かと思う。資料に館籍がないので、資料は各館をぐるぐる廻る、行った図書館の棚に求めている資料がなければ予約を入れる、ということになっている。

調布市や町田市の地域館を視察して3万冊から5万冊の小さな図書館でも、その地域に生活する方に必要な資料があり手に取れると気づいた。そういった蔵書構成のあり方が多摩市にはないように思う。必要な資料が手に取れば予約をかけなくて良い。地域館の蔵書構成は地域館の職員が責任をもって考えるということではできないか。極端な話では、ある利用者がひとつの地域館でリクエストした本を返し続けると、その人の読んだ本が集まる。会でよく話題になること。

貸出やリクエストが多いということは、多摩市民は読書をしているということ。

事務局： 調布市では地域館ごとに予算があり、地域館で選書して買っている。多摩市では、地域館からも購入のリクエストは上がってくるが、本館で選書・見計らいをしている。ある程度、館籍を付けて再配置することも必要かと考えている。

委員： 基本的な認識を共有したい。資料5-1にあるとおり全国の人口10万人以上15万人未満の市区町村の中で、個人貸出冊数は第2位でサービスの成果としては大成功と言える。市民一人あたりでは12冊、全国平均が5～6冊なので倍の実績。新設の図書館では貸出が伸びる傾向があるが7～8冊、図書館としての総合力がないと2桁の実績には至らない。様々な課題はあるが多摩市はそれをクリアしている。さらに貸出を伸ばすか、貸出サービスのレベルに満足してコストを下げるか、方向性を決めないと議論が進まないのではないか。ちなみに欧米で比較するなら北欧は国民1人あたり20冊、浦安市は13冊。

市民のどのくらいが本を借りているか(年1回以上利用があった人)、堺市では人口の9%、塩尻市は11%、多摩市は21%。多摩市は良く利用されている。

リクエスト件数が多いということは市民が主体的に利用している現れなので、マイナ

ス面よりもどう維持していくかだろう。

蔵書の質について、多摩市は館ごとの蔵書規模が小さいので専門的な資料を置きにくい。30万冊規模になると置いていくことになる。

全体的なサービスレベルはとても良いところにいると言える。

委員 : サービスのレベルが良いと言われてうれしいが、その多摩市で地域館をなくそうという案が出ている。地域館がなくなってしまうと、借りられなくなる人や図書館に行けなくなる人が出てくるということも考えてほしい。

副委員長 : 身近に図書館があるということが、多摩市の図書館の利用を支えているのではないかと。市内に効果的に分館が配置されてきたということの現れではないか。

委員 : 今後の蔵書構成について。大学に在籍しているが、学んでいる専門分野の蔵書は大学図書館に数多くあるので、地域の図書館には小説などを借りに行くことが多い。地域の図書館にはいままで通りの蔵書を充実させていくことが、若い年代には受けるのかなと思う。

委員長 : 図書館は貸本屋ではないとよく言われるが、多摩市ではベストセラー等の予約待ちについて問題になっているということはあるか。

事務局 : 問題として顕在化しているかはわからないが、ベストセラーを早く読みたいという要望はある。『火花』という小説では700件ほどのリクエストがあった。多摩市では、抑えてはいるが20冊くらいまで購入して要望に答えている。ベストセラーの寄贈を呼びかけたこともあったが、作家から批判があり取り下げた他市の事例もある。

ベストリクエストでは50番目のタイトルで100人待ち程度、何年待ちなのかという状況になっている。

委員 : 異質な話ではあるが、教育委員会で『絶歌』という本を多摩市の蔵書に加えるべきかという議論になった。図書館長の説明では、リクエストがあり利用者の要望に応えるため購入することだった。遺族には2度目の被害、少年法で守られた加害者は本で収入を得て自分の存在をアピールするなどということに、公の図書館が手を貸して良いのかという観点から、私は反対した。市民から要望があれば購入するのか。そういったことが厚みのある蔵書構成になるという論点とは一致しないのではないかと思う。要望があればどんな本でも購入するか、リクエストが年1回でも研究的に必要なから購入するか等、多摩市がどのような基準で蔵書を集めてゆくか議論しておいたほうが良い。

貸出件数・予約件数が高く、窓口業務が忙しいことは理解できるが、利用が多いことは誇るべきことだ。永山図書館では調べ物をしようにも座席がないくらい利用されている。中央館を整備するなら、蔵書の配置を固定化することである程度の課題を解消できるように思う。

委員長 : 永山図書館の話が出たが、分館一つ一つの特徴を簡単に紹介していただきたい。

事務局 : 本館：学校の教室を抜いて開架室にしているので、職員にとっては目の届きにくいと



ころもあるが人口密度が低く感じられるように思う。学習室ではパソコン持ち込み可としている。

東寺方：老人福祉会館, 児童館, 地区市民ホールとの複合施設で連携した活動がある。

豊ヶ丘：老人福祉会館, 児童館, 地区市民ホールとの複合施設。かつては一番利用が多かったが、今は落ち着いている。貝取こぶし館(コミュニティセンター)との連携も考えている。

関戸：聖蹟桜ヶ丘の駅前商業施設にあり、かつて入口付近に書店が入店していた。一番最初に夜間開館をした。

永山：永山駅前のショッピングセンターの奥にあり、公民館との複合である。公民館との間に軽読書コーナーがあり、勉強したりコンサートができたりするスペース。お話会もここでやる。図書館が閉まっても新聞が読める。

聖ヶ丘：聖ヶ丘(コミュニティセンター)にある図書館。ブラウジングコーナーがあり、新聞雑誌は図書館が閉まっても新聞が読むことができる。

唐木田：唐木田(コミュニティセンター)にある図書館。ブラウジングコーナーがあり、新聞雑誌は図書館が閉まっても新聞が読むことができる。また、多摩市で一番最後に開館した図書館である。

委員長：永山図書館の利用が突出しているのは、何か理由があるか。

事務局：後年できた図書館は、機能を分散しながらレファレンス機能の充実など少しづつ工夫していったことがあると思う。駅に近いことと、永山・諏訪のニュータウン地区から通勤・通学で都心に出る途中の良い立地もある。また、最近建て替えが進み人口が多くなり、若い人も増えているようだ。赤ちゃんお話し会も参加が増えている。

委員長：最初の委員会と言うことで自由に議論したい。他にご意見はないか。

委員：本館で選書作業をしているということだが、地域館からの要望はどのように聞いているのか。

事務局：地域館からの提案は、システムと紙の両方で上げることができる。

委員：意見の交換はないのか。

事務局：地域館から選書会議に出るというしくみはない。

委員長：学校図書館について、特徴や課題をまとめた説明はなかった。利用の仕方や連携について簡単な説明をしていただきたい。

事務局：学校図書館には全校司書を配置していて、各学校で工夫をこらしている。市立図書館と学校図書館のシステムはつながっていて、学校図書館から市立図書館の調べ学習につかう資料などの検索ができる。市立図書館から学校図書館に資料を移管して児童・生徒が貸出を受けることができる。また、学校図書館司書の研修を市立図書館職員が出向いて行っている。「ほんともフェスタ」では学校司書の取り組みを1校1枚パネル展示をしていただいた。学校図書館の活動は活発で、市立図書館との連携もできていると考え

ている。

委員長 : 学校図書館の資料費等の予算は1校あたりどのくらいか。

事務局 : 次回、調べてご報告する。

委員 : 町田市などでは分館に身近な資料があると聞いた。文化財保護審議会委員をやっていると感じるのだが、多摩市には行政資料に良いものがたくさんあるのにPRができていないように思う。『統計たま』や『ふるさとマップ』など図書館がPRできれば、もっと利用してもらえるのではないか。パルテノン多摩の展示は大変良いと思う。

委員長 : 今日はいろいろな話題が出た。議事録の整理の方法として、時系列の記載方法だけでなく、議論の素材となるよう分類してほしい。

時間が押しましたが、本日は議事を終了したい。

#### (4) これまでの市民の皆さんのご意見

事務局 : 議事(4)これまでの市民の皆さんのご意見がありました。資料をご覧いただきたいと思う。

委員長 : 大切な議題で時間をかけるべきだと思う。次回に送ることとする。

委員 : 学校図書館との連携については『多摩市の図書館 平成26年』にあるが、予算については記載されていない。バックデータを提供してほしい。

#### (5) その他

委員長 : 自由な意見が出て良い委員会になった。今後、絞って議論を進めたい。その他、意見がなければ閉会とする。

### 3 次回の策定委員会について

2回程度回数を増やすため、7月下旬から8月上旬にかけてで調整して決定することとなった。

策定委員会閉会后、新しい本館の候補地を俯瞰。本館の書庫の現状を確認した。